

国際アートフェア Artexpo New York 2013

- ・会期 : 2013年3月21日~24日
- ・会場 : アメリカ/ニューヨーク・ピア92
- ・主催 : Redwood Media Group

好天に恵まれたArtexpo New York 2013は、ここ数年では一番雰囲気も良く、多くの来場者があり、セールスにも復興の兆しがみえた。

3月20日(水)朝8時より作品搬入、開棚、展示をし、照明の調整に手間取ったが、翌朝には申請した以上にしっかりと設置されていた。過去には頼んだ通りの壁が無かったり、照明が足りなかったりと、会場設営時に神経をすり減らすことが多いArtexpo New Yorkだが、今回は満足のゆくものとなった。

3月21日(木)朝10時よりトレードオンリー(業者間取引のみ)がスタートした。全米からたくさんの業者が集まりスピーディーに商談が進んでゆく。我々のブースでもいくつかの作品の価格を尋ね、それぞれの卸値の確認をしては、どンドンと他のブースへと移動してゆく。とにかくまずは気に入った作品のあるブースのチェックを済ませようとしているのだ。

午後になってそのうちの数名の業者が戻ってきて実際に商談が始まった。まず、ニューメキシコの業者夫婦が、ある作家の1m四方の作品2点を購入した。1点はニューヨーク、もう1点はニューメキシコカワシントンに送る手配をし、満足げに会場を後にした。彼らは商談前に作品の画像を自身の顧客に見せたいと、我々に撮影許可を求め、その場で自身の携帯電話(スマートフォン)から画像を送り、しばらくその携帯電話で何やら話していた。すなわち先に売り先を決めてからこの2点を購入したことになる。買い付けに来ている業者なので当然だが、とても迅速である。もう1点、別の作家の屏風作品もと考えていたが、今回は購入に至らなかった。

また、会場には作品輸送の専門業者のカウンターが設けられており、購入者はそこで梱包から配送までの依頼が出来る合理的なシステムがある。

3月22日(金)朝10時より一般公開もスタートした。昨日よりも多くの来場者で賑わった。前日同様に人々はひとしきり会場全体を周りながら、気に入った作品のことをチェックし、遅い昼食の後、ある程度絞り込んで商談をする。

午前にある作家作品全部の価格を尋ねたあるカップルは、また来るからとブースを後にし、午後に戻ってきてその中の1点を購入した。

3月23日(土)前日同様。週末の休日で更にたくさんの来場者があった。午後、多くの方々からの作品に関するいろいろな問合せ対応の中、視界の端に見覚えのある顔を見つけた。それは最も景気が良かった2007年のArtexpo時に、2作家2作品を購入された若い夫婦で、その後、転居されて

連絡がとれなかったコレクターだった。久しぶりの再会を喜び、長時間お二人で作品を吟味され、ある作家作品をまとめて数点購入しようと作品を壁から外してレイアウトを相談していたが、二人の意見が合わず結局大きい作品1点のみを購入した。しかし、その作家作品の同じシリーズで違うテーマの新しい作品2点の制作依頼を受けた。現在その準備をしている。

3月24日（日）最終日。前日同様たくさんの来場者があった。あるグループが訪れて、22日に頒布された作家作品の前で盛り上がっていた。興奮気味にいろいろと質問され、「今日は何も買うつもりはなかった」と言いながらその作家作品の一番大きな作品を購入した。そして「バイクで来ているのでどうやって持って帰ろう、でもこうすれば大丈夫！」と解決して満足げに帰って行った。

人影もまばらになった夕方の終了時間ギリギリに一人のロシア人女性が訪れた。彼女は「あなたのブースはこのフェアではクオリティが高過ぎる。私は作家で作品レベルのことはよく理解している。」と褒めてくれた。「でも残念なことに私はあなたから作品を買うお金がない。」と付け加えた。それからいろいろな展示作品について「この作品はここがステキ」等、彼女はブース内を歩きながら話し出した。すると急に風景画の前で悲鳴のような声を上げて私を呼んだ。「この絵がここにこのように展示されている風景を私は見たことがある、たぶん夢でだと思う。そしてこの絵の風景を私は知っている。」と、そして「この作品を買います。」と静かに言った。「私は今日ここでこの作品を買って本当に嬉しい。でもたぶん夫に叱られるわね。」との言葉を残し、興奮冷めやらぬまま意気揚々と帰って行った。

弊社初参加の2004年から10年、今年のArtexpo New Yorkはかつての隆盛時のように、購入した作品を簡易な梱包で持ち帰るコレクターの姿を頻繁に見かけた。今回は4作家6作品の頒布に留まったが、セールスは停滞期を脱した感がある。Andy Warhol, Peter Max, Robert Rauschenberg, Robert Indian, Keith Haring and Leroy Neiman等も活躍したこのフェア35年以上の歴史には、主催社の交代や会場の変更、リーマンショック等、順風満帆とはいえないこともたくさんあったが、今年は景気が少し上向きになってきているような雰囲気を感じた。ニューヨークにはアーモリーショーやフリーズという現代美術に特化したアートフェアがあり、とても人気だが、このArtexpo New Yorkのような比較的大衆的なアートマーケットも根強く存在する。それもいろいろな価値観がエネルギーに混在する街ニューヨークらしい。